

結成15年・JR20年の節目を越え、安全の確立を基礎に、JR連合に総結集して未来を切り拓こう!



JAPAN RAILWAY TRADE UNIONS CONFEDERATION

日本鉄道労働組合連合会
〒103-0022 東京都中央区日本橋室町1-8-10 東興ビル9階
TEL (NTT) 03-3270-4590 (JR) 057-7848
FAX (NTT) 03-3270-4429 (JR) 057-7849
1部20円 (但し組合費を含む)
発行者/角田修作 編集者/池上嘉之

JR連合グループ労組連
絡会に加盟する労働組合の
〇八春季生活闘争は大詰め
を迎え、続々と妥結してい
る。未妥結単組も粘り強く

グループ34単組が妥結

ベア獲得は12単組

13日現在

交渉を展開しており、各単
組の奮闘がうかがえる。
五月十三日現在で妥結の
報告のあった単組は三十四
単組。要求提出の報告のあ

つた七十三単組のうち四六
・六%が妥結した。エリア
別に見ると、JR東海連合
が十七単組中十一単組、J
R西日本連合が四十六単組
中十七単組、JR四国連合
が四単組中三単組、JR九
州連合が六単組中三単組が
妥結した。

定期昇給を確保した単組
は三十二単組、ベアを獲得
した単組は十二単組となっ
ている。また一時金増額
家族手当の改善、初任給の
増額などの成果をあげてい
る。非正規労働者の待遇改
善についても多くの単組が
獲得している。

五回政策委員会を開き、「新
中期労働政策ビジョン(略
称「新ビジョン」)策定に
向けた今後の取り組みにつ
いて意思統一した。新ビジ
ョンは約一年間の検討と協
議を経て、来年の定期大会
に報告する予定だ。

「雇用・業務体制(働
き方)のあり方」では、J
Rが安全に運行し続けるに
は、社員が高いモラルを持

ち続け、経験、技術、技能
知識を向上させることが重
要で、雇用の流動化が進む
今日でも、JRは長期雇用
と一定の年功賃金を維持す
ることが必要であるとの立
場で検討を進める。

「生活改善闘争」では
賃金水準の引き上げに対す
る認識は変わらないが、総
合労働条件改善としての位
置づけが強まるなかで、賃
金問題専門委の中間報告

要があるとの立場で検討す
る。「ワーク・ライフ・バ
ランス」では、女性の就業
形態の「多様化」が進んだ
が、生活領域の性別分擔は
変わっており、仕事と生
活のアンバランスの負荷は
女性に集中している。ワー
ク・ライフ・バランスを美
現するために職場におけ
る働き方そのものを見直す
ことが不可欠との立場から
検討を進める。

福知山線事故から3年
しめやかに追悼慰霊式
「安全確立」の誓い新たに



事故現場近くに設けられた献花台に献花するJR連
合、単組の代表

JR福知山線事故から三
年を迎えた四月二十五日、
兵庫県尼崎市内で追悼慰霊
式がしめやかに営まれた。
慰霊式には遺族、負傷
された方が、JR西日本
の山崎社長以下役員・幹

部、冬柴国交省大臣、関係
自治体関係者など千三百人
余が参加した。事故が発生
した九時十八分には参加者
全員が黙とうした。
冬柴大臣と山崎社長は、
二度とこのような事故を繰
り返さない決意を込めた追
悼の辞を述べた。遺族代表
は、「一つの家庭を築くのに
何十年とかかるが、崩壊さ
せるのは数秒だ。JRはこ
のことを忘れず、遺族、負
傷者の思いに込めて欲し
い」と慰霊の言葉を述べた。
この後、参加者が祭壇に
花を手向けた。

JR連合からは用田会
長、松尾事務局長、荻山企
画部長、JR七単組の代表
が参加し、安全の確立を誓
い、献花した。先立ち、事
故現場近くに設けられた献
花台にも献花した。

新中期労働政策ビジョン策定へ
政策委員会が意思統一

JR連合は四月九日、第
七回政策委員会を開き、「新
中期労働政策ビジョン(略
称「新ビジョン」)策定に
向けた今後の取り組みにつ
いて意思統一した。新ビジ
ョンは約一年間の検討と協
議を経て、来年の定期大会
に報告する予定だ。

賃金問題専門委員会
最終答申まとめる



賃金問題専門委員会は第7回委員会で最終
答申をまとめた

JR連合の賃金問題専門
委員会は五月十一日、第七
回委員会を開き、第十六回
定期大会で決定した方針に
もつぎ、執行部から諮問
されていた今後の取り組み

安全検討会
都営三田線ATO
などを見学し交流
JR連合の第六回業種間
安全検討会は四月十五日、
都市交・東京交通労組のは
からいを得て、都営地下鉄
三田線の諸設備を見学し、
意見交換した。

同検討会に先立ち第四回
安全対策会議を開き、今年
度の共通テーマである「人
材育成と技術・技能の継
承」について各単組が実態
や課題を報告、討議した。
また、四月一日から実施
されているJR西日本「安
全基本計画」の策定経過や
内容の報告も受け、意見交
換し、理解を深めた。

JR東日本ユニオンは四
月十五日、JR連合と加
盟単組が組織をあげて取り
組んで集約した「JR東日
本における組合暴力による
被害者の救済と安心して働
ける職場と安全の確立を求
める署名」簿をJR東日本

会社に「署名簿」を提出
東日本ユニオン二役が

「規律ある職場づくり」要請書も

この署名簿の提出と同時に、
角田JR連合会長と今
井JR東日本ユニオン委員
長の連名による「規律ある
職場づくりに向けた要請」
を同社の清野社長にあて提

井JR東日本ユニオン委員
長の連名による「規律ある
職場づくりに向けた要請」
を同社の清野社長にあて提
呈した。署名簿は、JR東日
本ユニオンが、JR東日本
の復職、佐藤久雄氏(三鷹
電車区事件の被害者)の運
転士への復帰を早期に実現
するよう求めた。

出し、同種事件の再発防止
を強く求めた。
要請書では、「東日本本
社の職場ではいわゆる『浦
和電車区事件』をはじめ、
最大労組の役員らが職場規
律を著しく乱す由々しき事
態が発生してきた。いまま
彼らに反省の姿勢はない」
と指摘。「規律ある職場秩
序と社員の人権を守ること
は人命を預かるJRの企
業としての当然の使命であ
る」と強調している。

そのうえで、「多数の人命
を預かるわが国最大の鉄道
事業者として、内外の声を
真摯に受け止め、不幸な事
件を二度と繰り返さないよ
う、規律ある職場秩序を確
保し、社員がお互いに信頼
し合い、安心して働ける職
場を築く」ことを強く要請
している。

二つしたなか、浦和電車
区事件、三鷹電車区事件と
もに、被害者救済を求める
裁判手続は着実に進んでい
る。JR連合は、今回の署
名簿と要請書の提出を契機
として、運動の結実に向け
取り組みを強化していく。

1、賃金水準のいっそう
の引き上げに向けた運動の
展開
2、目標賃金(上位目標
必達目標など)の到達に向
けて
3、成果表示のあり方
4、「春闘」の強化に向
けて

マン運転と各駅でのホーム
ゲートの取り扱いの様子を
見学した。検修所、工場、
運輸指令も見学し、乗務区
の管理者や運転士と意見交
換した。ホームゲートによ
る安全性を見聞したほか、
ATO導入までの労使協議
などの経緯、現状の課題と
取り組み、運転士の意識、
指令を含めた人事運用・人
材養成の実態、検修部門に
おける技術継承など、多岐
にわたって質疑応答し、理
解を深めた。

「署名簿の提出と同時に、
角田JR連合会長と今
井JR東日本ユニオン委員
長の連名による「規律ある
職場づくりに向けた要請」
を同社の清野社長にあて提
呈した。署名簿は、JR東日
本ユニオンが、JR東日本
の復職、佐藤久雄氏(三鷹
電車区事件の被害者)の運
転士への復帰を早期に実現
するよう求めた。

「署名簿の提出と同時に、
角田JR連合会長と今
井JR東日本ユニオン委員
長の連名による「規律ある
職場づくりに向けた要請」
を同社の清野社長にあて提
呈した。署名簿は、JR東日
本ユニオンが、JR東日本
の復職、佐藤久雄氏(三鷹
電車区事件の被害者)の運
転士への復帰を早期に実現
するよう求めた。

「署名簿の提出と同時に、
角田JR連合会長と今
井JR東日本ユニオン委員
長の連名による「規律ある
職場づくりに向けた要請」
を同社の清野社長にあて提
呈した。署名簿は、JR東日
本ユニオンが、JR東日本
の復職、佐藤久雄氏(三鷹
電車区事件の被害者)の運
転士への復帰を早期に実現
するよう求めた。

「署名簿の提出と同時に、
角田JR連合会長と今
井JR東日本ユニオン委員
長の連名による「規律ある
職場づくりに向けた要請」
を同社の清野社長にあて提
呈した。署名簿は、JR東日
本ユニオンが、JR東日本
の復職、佐藤久雄氏(三鷹
電車区事件の被害者)の運
転士への復帰を早期に実現
するよう求めた。

「署名簿の提出と同時に、
角田JR連合会長と今
井JR東日本ユニオン委員
長の連名による「規律ある
職場づくりに向けた要請」
を同社の清野社長にあて提
呈した。署名簿は、JR東日
本ユニオンが、JR東日本
の復職、佐藤久雄氏(三鷹
電車区事件の被害者)の運
転士への復帰を早期に実現
するよう求めた。

「署名簿の提出と同時に、
角田JR連合会長と今
井JR東日本ユニオン委員
長の連名による「規律ある
職場づくりに向けた要請」
を同社の清野社長にあて提
呈した。署名簿は、JR東日
本ユニオンが、JR東日本
の復職、佐藤久雄氏(三鷹
電車区事件の被害者)の運
転士への復帰を早期に実現
するよう求めた。

ストップ・ザ・格差社会前面に

メーデー 四万五千人が参加 中央大会

連合は四月二十六日、東京・代々木公園で第七十九回メーデー中央大会を開いた。四万五千人を超える組合員が参加した。来賓として舛添要一厚生労働大臣、小沢一郎民主党代表、福島みずほ社民党党首、亀井久興国民新党幹事長などが出席し、あいさつした。会場の「ふれあい広場」には六十七のNGO、NPO、労働組合や政党などが模擬店を出し、大道芸などのイベントや各国料理のレストランカーも軒を連ねるなど、労働者の祭典は、今年も大いに盛り上がった。

集会にはJR連合からJR東日本ユニオン、JR東海ユニオン、JR西労組東京支部、貨物鉄道労、東海連合のJR東海バスセンター、ヤーズ労組の組合員など約三百人が参加した。主催者を代表してあいさつした高木連合会長は「春闘交渉はこれまでのところ

おおむね昨年並みで、中小やパートでは賃金引き上げを実現したところも多い。しかし、個人消費の改善という目的は十分果たせなかった」と述べた。また、格差社会の拡大に強い懸念を示し、「非正規問題は格差社会是正の最大の課題であり、私たちの職場にかかわ



東京・代々木公園でのメーデー中央大会には在京単組の組合員300人が参加した

る問題だ」と述べ、運動へのさらなる協力を訴えた。さらに「ねじれ国会」の動向に言及し、ガソリン税

などの暫定税率関連法と道路整備特別措置法の再議決には反対、後期高齢者医療制度は廃止を含めた抜本的見直しの必要があるとの考え方を示した。式典では連合とNGO、

NPOが「自らの可能性を開花できる社会」の実現に向けて、ともに行動する共同メッセージを採択。また「来る衆院選での政権交代の実現」「世界の恒久平和の実現や人権侵害の救済」「格差是正の実現」などをうたったメーデー宣言とともに、「ガソリン税等の暫定税率の復活反対」「後期高齢者医療制度の廃止」「年金記録問題の早急な解決」を求める特別決議を採択し、団結カンパニーで締めくくった。

「非正規労働メーデー」も

午後からは代々木公園野外音楽堂で、連合としては初めての「非正規労働メーデー」を開催。「労働者の使い捨ては許さない」をテーマに、高木会長と作家の雨宮処凛さんがトークセッションを行い、ザ・ユニオンズのパフォーマンスがイベントに花を添えた。

国交省通達は守られているか

ツアーバスの実態調査

西バス 組合員80人が二日間 地本

JR西労組西バス地方本部は三月三十、三十一日の両日、組合員八十人が参加して早朝と深夜に、大阪・神戸・京都・金沢などの管内主要八駅付近でツアーバスに対する国土交通省の通達（二〇〇七年十二月十四日）「交替運転手の休息のための座席の確保の徹底」の確保が遵守されているかを調べる実態調査を行

調査の結果、ツアーバスの車両は一部で減少傾向にあるものの、依然としてバス停や交差点・歩道を占拠したり、車や人の通行を妨げ、乗客の安全を確保しないで乗降扱いをしている実態などが明らかにされた。

この実態調査で明らかになった問題点を国土交通省と関係省庁に提起し、対策を求めてきた。あずみの観光バスの事故発生もあり、

ツアーバス問題は社会的にもクローズアップされた。国会ではJR連合議員懇の三日目、伴野両議員が実態調査の報告を取り上げ、国土交通大臣の实情視察が実現した。その後、国土交通省は、貸切事業者の特別監査や「貸切バスに関する

安全等検討委員会」の設置等の通達を出すなどの対応を取ってきた。

国土交通省が出した昨年の通達では、新たに駐車禁止場所（道路交差法第四十四条）における乗降扱い

の禁止、交替運転手の座席の確保などを内容とする安全運行の確保の徹底を促す通達を発するとともに、同省は警察庁に違反車両の取り締りも要請している。

JR西労組西バス地本の取り組んだ三月末の実態調査はこの通達が遵守されて



雨の降るなか、有楽町マリオン前で、政策転換を訴える高木連合会長

パート共闘がヒアリング 東海キヨスク労組 非正規の組織化で

連合のパート共闘会議に、JR連合をはじめ二十二構成組織が参加している。同共闘会議は、法令遵守と「パートだから」という考え方に起因する差別的

取り扱いを排除し、労使交渉によって均等・均衡待遇の実現をめざして活動を続けている。

今年度は、非正規労働者の組織化と労働条件の均等化を

公明両党によって復活されようとしていることに、世論を無視した対応を許してはならない」と厳しく批判した。

国会で JR連合議員懇 頑張ってます

日頃よりJR連合の皆さまには大変お世話になっております。私は、いま党内で主に法務と労働政策を担当

内容には、鉄道やバスなどの公共交通や物流について、安全性や利便性、地域交通の確保など国民の福利を第一に考え、「移動する権利」を中心に据えながら、交通政策の基

本原理と基本的な施策を定めたものです。この法案は、交通労働協の皆さまとの共同制作といつてもいいものです。

化に先進的に取り組んできた単組を対象とする組織化実態調査を行っている。

後期高齢者医療 制度見直しなど

「国民の声を聞け」「今こそ政策転換を」。連合は四月二十四日、通常国会やマ場に向けた街頭宣伝行動を実施した。小雨の降るなか、構成組織の組合員らが有楽町のマリオン前で、暫定税率復活反対、後期高齢

者医療制度の見直し、年金記録問題の早期解決を訴えるチラシを配った。

また、七十五歳以上の全員から保険料を徴収する後期高齢者医療制度への怒りが高まっていることを指摘し、「長寿医療制度」と

言葉だけどもかそつとして見直すことが必要だ」と強調した。年金記録問題でも早期解決を訴え、安心して暮らせるセーフティーネットの確立が必要だと訴えた。